

グループ番号									
名前									

ICF思考による情報整理・分析シート

		利用者氏名	神谷 花子
利用者・ 家族の意向	利用者		
	家族		

利用者の現在の状況

【健康状態】

病名・症状、服薬内容、既往歴、主治医、受診行動（頻度、方法）、その他

病名：①脊柱管狭窄症、坐骨神経痛、変形性膝関節症 ②陳旧性脳梗塞、③糖尿病、高血圧症

通院：長谷川内科クリニック：月1回通院、整形外科：月1回通院

服薬：降圧剤、鎮痛剤

BMI：17.48(低栄養、やせすぎ)

生活機能

【心身機能・身体構造】	【活動】	【参加】
<p>睡眠の内容（不眠、中途覚醒、服薬の有無）、</p> <p>栄養（増加、減少、嗜好、水分摂取状況）、</p> <p>視覚・聴覚・痛みと日常生活の支障の程度、</p> <p>口腔機能と衛生、排尿・排便障害、筋力、全身持久力、</p> <p>精神面（抑うつ、認知機能）、その他</p>	<p>コミュニケーション、</p> <p>立ち座り・浴槽のまたぎなどの起居動作、</p> <p>移動（屋内・屋外歩行）、運搬動作、</p> <p>洗髪・洗身、爪切り・耳掃除、</p> <p>下着・衣類の着脱、買い物、金銭管理、</p> <p>簡単な調理、掃除、整理整頓、洗濯、</p> <p>服薬管理、その他</p>	<p>外出先の有無、趣味活動、</p> <p>友人・親戚の交流、</p> <p>地域の居場所、</p> <p>日中の活動の有無、その他</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・左上肢麻痺・両下肢筋力低下。 ・左肩・左肘の関節拘縮。 ・老眼鏡をかけると見える。 ・大声で話しかけないと聞こえない。 ・認知能力は問題なし。 	<ul style="list-style-type: none"> ・杖歩行。支えがなければ歩けない。 ・病院内では基本動作は自立しているが、歩行や移動は不安定。車いすは自走できる。 ・更衣・入浴・排せつに一部介助が必要。 ・調理・掃除・金銭管理などのIADLは、入院前から妻が行っている。 ・義歯が合わなくなり、うまく噛めない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近所とは挨拶をする程度の付き合い。 ・教会所には知人が多かった。

健康状態は生活機能にどのような影響を与えているか？

背景因子

(環境因子、個人因子) は生活機能にどのような影響を与えているか

【環境因子】

家族構成及び家族の健康状態、家族・親戚とのつながり、
経済状況、住環境（立地状況）、
交通機関へのアクセス、よく利用していた社会資源、
福祉用具・自助具、医療・保康・福祉サービス、
友人の家までの距離、その他

【家族】

・主介護者である妻は腰痛・膝関節症があり、夫の身の回りの介護に限界がある。
・妻は、介護に関する知識がほとんどなく、本人の残存能力を活かした介護ができない。

【住居】

・自宅周辺は坂が多く、車いすで一人で外出できない。
・自宅では布団で寝起きしているため、起き上がりや立ち上がりが困難。
・トイレや浴室に手すりがないので、入浴や排せつに介助が必要。

【個人因子】

年齢、成育歴、趣味・嗜好、性格、価値観、職歴、その他

年齢：77歳

職歴：大手企業のサラリーマンとして定年まで勤務。
退職後は事務関係の仕事に65歳まで従事。

趣味：囲碁

性格：真面目、温厚な性格

現在の様子：リハビリに意欲的に取り組んでいる。自宅に帰って妻に迷惑をかけないか心配している。囲碁が好きだが、今の状態でできるか不安に思っている。

介護支援専門員等による情報整理・分析

	現状が続くことで 予測されるリスク は何か？（防ぐべきこと）	
	<div>【環境】</div>	<div>【個人】</div>
	状況を改善するための 促進因子 は何か？(活動や参加にプラスに働く要素・内容)	
	<div>【環境】</div>	<div>【個人】</div>

↓

生活の目標			
-------	--	--	--

解決すべき課題の明確化と目標の設定	生活全般の解決すべき課題（ニーズ）	(長期目標)	(短期目標)

